令和５年度　地域福祉推進会議　会議録

【日　時】令和６年１月２２日（月）午後１時３０分～午後３時２０分
【会　場】磐田市総合健康福祉会館ｉプラザ２階ふれあい交流室１・２
【出席者】13 名

【欠席者】２名
【事務局】13 名

１あいさつ

２議事
（1）第４次磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗状況について
　第４次磐田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗状況について、市福祉課担当者から市の事業の指標をもとに説明した。続けて市社協担当者から、社会福祉協議会の事業について指標と展開内容の説明をした。

委員長…　地域福祉計画・活動計画は、アクションプランである。施策的に進める計画だが、地域と住民を巻き込んだものとして、ＰＤＣＡをどう回していくかが問われる。本日の資料はそれを念頭に置いたものだが、Ｄでは取り組んで実効性のあるものか、Ｃでは一度立ち止まって確認する必要がある。皆さんには、Ａの実効性を確認したうえで改善・向上、これからどう取り組みを加えていくか、それぞれの立場からご意見をもらいたい。

委　員…　基本目標２の８番目の避難行動要支援について、危機管理課に講演をお願いし、能登半島地震でも津波があったので説明をしてもらった。今後、避難行動に関する防災の計画見直しがされるとのことだが、福祉課でも把握されているか。

事務局…　危機管理課とも連携を取って福祉部局として進めていきたい。内容の詳細については、内容をよく確認をしたい。

委　員…　東日本大震災の時は、新幹線のあたりまで避難するということだったが、その後国道 150 号線という話を受けていた。高齢者の足では動けないので、危機管理課に早めに確認したい。3 分で津波が来るという話も聞く。

委員長…　能登の方では、いわゆる最後のセーフティーネットの福祉である避難所が予期せぬ事態となることが報告されている。個別避難計画あるいは要支援者名簿といったような仕組みが 本当に実効性のあるものになっているのかシミュレーションも含めて検討しておかなければいけない。

委　員…　先日市社協でご案内をされた地域福祉人材養成講座に 61 名が参加したと聞いて安心した。各地区でセカンドライフや社会参加の促進講座を今までやっていただき、様々な地区のメンバーが様々なところで集まって盛り上げていることを報告させていただきたい。先ほど増田先生が、ＰＤＣＡを回すお話をされた

が、やりっぱなしでなく、参加したメンバーがＯＢ会を開き、地区がまた統合的にお互いの交流を深めていけるとよい。今年度は新規講座が未実施ということだが、なんでもいいからやっていただきたいと思う。やはりＩＴ化、 スマホが使えない人はだんだん遅れてしまう。人と人が集まって、人づくり、人のためになるような活動を順番に計画的に推進してほしい。 計画づくりを受けて、それに沿って活動をしたい。

委員長… 地域福祉人材養成講座を受講された方々も含めて、参考にされているとのことである。豊かな活動の見通しがあるという報告がされた。これに関連して、認知症サポーター養成講座の受講者が、ステップアップ研修を受講して、さらにステップアップして、地域のために何をするのかという議論をされるとよい。

田口委員… みんなが仲間として広がっていくような活動をしないといけない。やはり、みんな心豊かに自分の立場でどこかに顔を出して、何かで社会参加できるようにしたい。自分自身も地域の一部を支えているのだという意識を持てるとよい。そのようなところで繋がれたらと思う。

委員長… 社協はボランティアなどの住民参加に対して、増えているのか、減っているのか、どのようなイメージがあるか。

事務局… 社会参加促進講座を積極的にやらせていただき、さまざまな地域の方に協力をいただき事業継続をしている。ただ、メンバーを見ると 5 年、10 年前からご協力いただいている方も多いと感じている。コロナ禍の影響はかなり大きいということと、1 人ひとりが個を大事にするというような機運が社会にあるというところが、地域の支え合い活動に少し影響していると感じている。

委員長… 個を大事にするということは、地域の中にそれが浸透していて、むしろプラスのイメージと捉えているのか。

事務局… どちらかと言うと、1 人ひとりのお気持ちで動かれる方が多くて、みんなで支えるというところが少し弱くなっているような気がする。ただ、今回の震災を自分ごととして考えてくださる市民の方が多ければ変わってくると思うので、社協としてもアプローチをしていきたいと思う。

委　員… 地震に対して応援していただき、感謝申し上げる。私の家内の出身が七尾市である。最近、テレビで家内が卒業した小学校が避難所になっていて、子どもたちがそこへ来て遊んでいる姿を見た。私は直接行けないが、息子がワゴン車に水とか食料を載せて現地に行った。その小学校のグラウンドが真っ二つに割れて使えない。体育館の基礎が見えるぐらい周りの地面が沈んでいる。 地元の人は助け合って避難所でも暮らしている。私は富山出身だが、北陸は昔からの人が多く新しく入ってくる人が少ないため、何かあった時はみんな顔見知りで、どこへ行っても助け合うことが自然にできている。私に対して親は、「静岡で人の役に立つような仕事をしろ」といつも言っている。なかなかできていないが、その気持ちがどこかにある。今、地区社協の仕事で 1 番困っていることは、隣近所の人とあまり話さない人が多いことである。自分たちは新興団地に入居したので、人が入れ替わっていても本当に近くの人しかわからない。作業でいろ

んなイベントやろうとしても、なかなか心が通い合うところまでいかない。そこをなんとかしたいと思っている。具体的な事業としては生活応援クラブである。田原地区でもやろうと思うが、皆さんに意見を聞くと、要らない・知らないという人が多いが、地元の人たちは高齢者ばかりなので、あると助かるという人もいる。このような活動をどうやって立ち上げて浸透させていけばいいのか。 そこが今相変わらず頭の中でモヤモヤしていて、次の 1 歩を踏み出せない状況である。

委員長…　大事なご指摘をいただいた。この辺りの課題、地区ごとに温度差があることについて、皆さんはどのように考えているか。

委　員…　第 1 の人づくりについては、地域福祉教育とか人権教育というような、「教育」という言葉が書かれているが、行政としては「啓発」という言葉で言った方が良いと思う。人権啓発の方が教育よりも幅広く社会化されている。21 世紀は人権の世紀である言われていて、平等から公平へというようなキャッチフレーズで進められてきている。 増田先生の講演を聞かせていただいたが、比較的な平等から実質的な平等へということだったと思う。啓発ならば、学校だけでなく企業の中のパワハラ等にも関連する。2 番目の地域づくりだが、避難行動要支援者の計画作成について、対象者は限定されているが、着実に進んでいる。今、能登地方は外部支援の受け入れ体制ができてなくて、しばらく足止めされている。静岡県も同様に地域によって避難の形は異なり、平素に考えていたものとは違った緊急性が問われる。単なる地震だったら良いが、面的な被害があると大変になる。

委員長…　2040 年という話があったが、多くの人が認知症になる。あらためて、地域の中で私たちが一緒に暮らすためにどうしたらよいのか。災害の避難の問題もそう、地域のあり方の人権の問題もそう、それを担ってくださる若い人たちの啓発もそう、多分待ったなしの課題がある。

委　員…　年々、高齢化により会員数の減少で大変苦労をしている。老人クラブの役割は、介護予防活動、地域社会での高齢者の健康を支えることである。それが十分果たしきれていないような状況にある。現在、市内の自治会が 3 分の 1 以下の組織率である。会員数が約 5000 人で高齢者人口の 10%を切っている。そのような状況下で、高齢者が健康長寿を目指す活動の維持ができず、各地区で機能していない。私の地域ではシニアクラブで様々な活動をしているが、何もない地域もたくさんある。サロンもシニアクラブもないところの高齢者に対してどのような支援をするか、どのような介護予防をしていくか、考えなければいけない。会員の平均が 80 歳前後で団塊世代の入会がなければ、組織は維持できない。最近では、地域の秋祭りをやめよう、面倒だからやめようという動きもある。地域づくりが立ち行かなくなる。秋祭りを支えるためには、若い年齢の方々がやらないといけない。「強制ならば転居する」という声も聞く。計画にある理想的なことができるように私自身も老人クラブの役員をしているが、非常に困っている。

委員長…　シビアな話だが、このような話題が地域の中で聞こえてくるようになった。現在の危機感が伝わってきた。祭りは、辞めた後に復活させるエネルギーはものすごく必要である。それこそが伝統の持つ力、どう続けていくのかということになる。今回の計画の、ＰＤＣＡの概要については、今、事務局の説明と、皆様から貴重なご指摘をいただいた。 あらためて計画の中に組み込んで、話題にしていかないと思う。

議事の 2 つ目は、地域福祉推進事業地域活動の現状。くらしと仕事相談センターについて、障害者等就労支援について、事務局から説明をお願いしたい。

※生活相談グループ担当者、福祉課課長補佐から説明

委　員…　現在、磐田市の身体障害者相談員を受けているが、身体障害者福祉会だけをみると会員の年齢が高くなって相談ほとんどないが、就労の相談内容は年齢的にどのくらいの方たち多いか。

事務局…　障害者の就労の関係で幅は広いが、特に精神障がいと知的障がいの方が多いので、比較的若い世代、20 代から 40 代ぐらいの方が、非常に多い。

委　員…　肢体不自由者からの相談は、ほとんどないか。

事務局…　そういう方はほとんどない。

委員長…　一就労相談窓口について、合理的配慮の課題があるが、しっかり視点を置いて窓口業務と支援業務をやっていただきたい。静岡県の苦情対応の仕事を弁護士とやっているが、毎月 20～30 件と上がってくる中に、実は窓口業務のミスマッチが多い。ご本人の話を苦情として聞くのでなく、きちんとニーズ・事実として受け止めて、そこから 1 つひとつ過程をつくりプロセスをつくることが大事で、インテークのミスが 4 割近い。そうすると苦情になる。利用者の立場に立って、当事者の立場に立って支援することを期待したい。

本日 3 つ目、地区別の地域活動の進捗状況についてご説明をお願いしたい。

※社協地域福祉係担当者から説明

委員長…　本当はここが 1 番大事な議題。 地区の皆さんの顔が見えて、動向が伝わってくる。12 月までの地区の動向ということでまとめてもらった。住民の方々に密着した課題がある。

委　員…　私は長野地区在住だが、全住民アンケートの結果として冊子が全戸配布されているが、これ以外で計画として長野地区の方で進められているものはあるか。

事務局…　私は長野地区のアンケート実行委員で、この会議に出ていたが 正直なところ一生懸命みんなで考えているが、なかなかまとまっていない。でも、「いいじゃん長野」という合言葉が決まった。長野でみんなやってこう、長野で考えようっていうことが 1 つスローガンとしてできた。やはり長野は海に近いので、津波が心配。安全、安心を守るには、防災と福祉によって大きく決まるので、それを支える団体を地域づくりに巻き込んでいく。自治会と地域づくりを少し分けて、じっくり腰を据えてやれる人たちで地域づくり協議会をつくり、福祉と防災が連携をしながらやっていこうということになった。私は福祉の部に属しているが、やはりあのアンケートの結果が何よりも大事なので、そこで出た意見

を福祉活動にどう取り入れていくかということを話し合っている。幸い、長野がすごく何かで困っていることもない。だが、10 年後には必ずいろんな困りごとが出てくる。少し時間があるか、これを利用して、地域の人たちの声をしっかり聞きながら課題を掴んでやっていく。それには現在、せいかつ応援倶楽部があるので、それを足がかりにしながら、ゆっくり地域の声を聞きながらやっていこうという段階である。

委　員…　富岡地区で地区社協代表と福祉委員をやっている。高齢者夫婦と独居高齢者が多い。若い人が少ない。話題に挙がったせいかつ応援クラブをつくっても担い手に困る。年齢が高く、ある程度の年齢まで勤めている人も多い。自治会長などの役員も役員を押し付け合うことになる。基本目標の 2 の介護予防に関する啓発活動では、まちの保健室の回数が減ってしまうので、地区サロンに合わせるなど、工夫しようと思う。また、健康講座として、認知症講座、糖尿病予防を実施している。

委員長…　中学校や高校のある地域ならば、それも大きな資源である。様々なアイデアを募りながら、それを繋げて地域活動を実践していく。地区社協の方が本当にフル回転されていると思うが、これだけの地域のさまざまな活動をカバーすることは極めて難しいことだと思う。コツコツと地域を耕して、皆様の心を繋げて、そして 1 つ 1 つの人生をそこに積み重ねていくのは忍耐が必要である。

委　員…　関心を持って聞かせていただいた。自治会連合会組織で活動する中で、同じような福祉の問題が出されている。役員がやる気があると進み、そうでない時には元に戻ってしまう。役員の考え方で変わってしまうのが自治会組織の活動の特色である。活動をやっていただきながら、盛り上げてく必要がある。

委　員…　ボランティア活動を主にやっているので、自分の住んでいる地域活動がどのような仕組みで行われているのか横から見ている。富士見町に住んでいるが、見付はとても広いが、交流センターは 1 つだけしかなく、そこでの活動も富士見町から見ると別のような感覚で、 見付全体として考えられているのか疑問である。役員もいつも変わらなくて、高齢化が進み世代交代がうまくできていないのかもしれない。地域活動として広すぎることの問題点があるのではないか。ボランティア活動としては、ボランティア連絡協議会で活動しているが、コロナ以前に活動が少しずつ戻ってきているが、コロナ禍の何年かの間に、やっぱりボランティアを行う人自身も年齢を重ねて、あらためてここから出発しようとすると、前と同じような活動はできないのではないかという団体も多く見られる。独自に活動して会員を増やそうとする団体もそれなりにある。受講者募集など思うように行かないこともあるので、団体が独自で行う養成講座みたいなものに対して、市社協にもぜひお力を借りたい。

委　員…　当社会福祉法人としても、コロナ禍が長く続いてかなり停滞し、中のことだけで精一杯というような時期が長く続いた。ただ、これではいけないということで、来年度は地域貢献事業についてのプロジェクトを組み、積極的に取り組んで社会福祉施設としての役割を果たしていく計画である。この地区別の指針を

見て、地域の問題点についてしっかりと地域と話し合いをして、活動していかなければいけないと思っている。福祉施設がしっかりと入っていかなければいけないと責任を感じている。あとは、ボランティアの拡大について、磐田市がボランティアを増やす取り組みで数字としては上がってきている印象はある。だが、働き終えた介護職員や、年齢を重ねた職員は、仕事でなくても、まだ、何かやりたいという気持ちを持っている方が、面談をしていく中でいると感じている。そういう人たちが、次の新しい活躍する場所で役に立ち、地域が輝ける場所になるのでは思っている。そもそも、こういう業界で働いている職員は、何かを、誰かのために働きたいという傾向がある。地域活動をしながら私たちも成果を出していきたい。

委　員…　本日感じたこととしては3つ。まず、防災意識だが、何十年間に1回大きな災害が起きていて、住民の意識付けが大事である。災害が起きるたびに意識付けをするチャンスになる。もう1つは、障害者雇用、就労に関することである。どの業界も人がいない一方で、働きたくても働くことができない。したがって、特性を知って、その環境を調整して配慮していけたら、働くことのできる方が多数いると思う。そういったところも含めて、アセスメントとマッチングの力を入れられると良い。3つ目が、福祉に関する啓発ということ。先ほど、「教育」という言葉を「啓発」にという話もあったが、私も同感で、メンタル不調やパワハラなどで働けなくなってしまっている方もいる。予防の観点を持った上で、啓発をしていくということが大事でないかと感じる。

委　員…　自治会の役員になった方の気持ち次第で、事業の進み具合が違うという話があったが、職員も伴走する上で、その職員の気持ちによって変わってくるということをあらためて感じた。それと、啓発が本当に大事なことだと思う。認知症や介護予防は本当に啓発が大事だが、ある先生からは、「認知症は予防ではなくても、ある年齢が来たら誰でもなります」とのことなので、「これからの時代は、認知症になっても重度化しないとか、共生していくということが大事だ」ということだった。やはり、認知症についても、介護予防についても、ある年齢が来てから予防するのでなくて、若い世代から取り組んでいかなければいけない活動があるはずである。地域包括支援センターは65歳以上を対象にするが、別の相談センター等と協力しながら、啓発をこれからもやっていかなければいけないと思った。

委　員…　能登半島地震で感じることだが、災害が起きると情報源が新聞のみになると言われる。今回の能登半島の地震も同じである。災害があるたびに、社員も被災者になる。我々の業界としても、全員が出てこれるわけではないので、個別配達を最初の1週間は維持していくことは困難である。避難場所は、各地区、学校を中心に決まっていると思うので、少ない人数でできることはやっていきたい。組合の中でもこうした大きな災害があると、話が出される。なるべく多くの方に、新聞を届けられるよう、見ていただけるように、体制は整えていかないといけない。

話は全く変わるが、私は千手堂に住んでいる。働き世帯と繋がりがないという課題があったが、私の千手堂には「千友会」という親父の会みたいなのがあり全員が入っているわけでないが、働き世代の繋がりはかなり濃いものがある。濃淡はあるが、ご近所同士でもバーベキューやったり、飲み会やったり、活動以外でも非常に繋がりは多い。来年度4月から20代前半の新しいメンバーが入ることになった。基本的には、子育て世代のお父さんが、子どものために何かイベントをやる会だが、小さな頃から活動を見てきた若い子たちが、結婚や子どもができる前に会に入って地域のために活動したいという思いで入ってくれることになった。非常に好循環が生まれた例だと思う。新しく誰かを誘うのは大変だが、積極的に参加してくれる人が今回出てきたので、地域の繋がりをこの後もずっと繋げていければと思う。

委員長…　厚労省が行う様々な仕掛けの全ては、地域福祉がうまく回らないからである。今回の重層的支援体制や生活支援体制整備も、その前の地域包括ケアを言い始めたのも、それが理由である。本当に地域福祉がうまくいっている町は、システムや組織や制度そのものがうまくいっている。そこで厚労省は評価するが、本当に住民の方々の暮らしに、地に足をつけているか。厚労省の政策の名称はコロコロ変わるが、根っこは一緒ということが大事と思う。先日、厚労省の方と Zoom でやり取りしたが、私が、「あなた方の政策は、女性政策がコロコロ変わっていく。本当に女性の立場に立った政策をこれまでやってこなかったツケがいろんなところに影響しているんだよ」っていう風に話をしたら、 参ったっていうか、困ったという顔をされていた。障がいの方、高齢の方、子どもたち、いろんなテーマが上がってくるが、女性たちの暮らしにくさというところにはなかなか焦点が当たらない。でも、それぞれの福祉課題を担っているのはまさに女性たちでもある。あらためて話題にしていかなければいけないと思う。女性たちは、非正規で継続性がなくて、なおかつ安価な労働力ぐらいの形で位置づけられているので、本当に子育てにしても家族にしても地域にしても、その女性たちの暮らしや姿が見えてこないのではないかというのが厚労省の方との私の議論だった。先ほど私はつい忍耐と言ったが、忍耐というのは、進歩するとか我慢するという意味ではない。ギリシャの忍耐の「忍」というのは、 愛する人たちを雨風や太陽の暑さから守るという語源だという。「耐」えるというのは、その愛する人たちとともにその地域、その場所に踏みとどまるという意味が込められている。地域福祉は、住民の方々の忍耐に支えられて作られてきている。その積み重ねできたということを申し上げて、私なりの感想を終えさせていただく。本市におけるこの委員会は活発な議論をたくさん毎回いただき、感謝を申し上げる。それが今後さらに施策等や社協の活動等に組み込まれていって、 住民との協働の中で本市の地域福祉がつくられ、創造していくことができるようと願っている。いろんな会に出るが、これだけ委員の皆様方から活発なご意見をいただくのは極めて稀である。その分だけ、磐田市民の皆さんの熱い気持ちがこの中に伝わってきているのではないかと思う。感謝申し上げる。

5 事務連絡

・次期の委員選出、公募等の内容、詳細は今後決定。改めて選出依頼等の依頼あり。

・次年度の会議は、年 1 回の開催予定

6 閉会